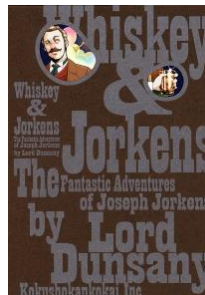


小林剛 (UNA) …舞台の宣伝美術もされている。

『ウィスキー&ジョーキンズ：ダンセイニの幻想法
螺話』ロード ダンセイニ

(『第2回 Twitter 装幀賞』受賞作)



沼田元氣(木村真喜子)…本の装幀の名は木村さんだが
著者も装丁家のため著者の意見が色濃く反映。

『東京喫茶店案内 ぼくの叔父さんのガイドブック』

沼田元氣

(角がアール,色違いのスピンの3本)



坂川英治+田中久子(坂川事務所)…書籍の装丁だけでなく、CD・映画・空間デザインのディレクションも

緒方修一(oldnews Co.)…新潮社装幀室を経て独立。
ロゴデザインが良い。

『夜想曲集』カズオ・イシグロ



『百年文庫』シリーズ



Copyright(c) コットン

大久保明子(文藝春秋デザイン部)…特徴的な色使いが良い。文藝春秋のデザイン部はわりと放任主義らしい

『飛ぶ孔雀』山尾悠子
(タイトルと著者名が箔押し)



泉沢光雄…本の内容をイメージしやすく、タイトルが見やすいものが多いように思う。

『三日月少年の秘密』長野まゆみ
(挿画は著者自身)



酒井駒子…繊細な女の子の思いを描く達人

『森のノート』自身の初エッセイ
『最果てアーケード』小川洋子



羽良多平吉…色の組合わせによる思わぬ効果の引き出し方がすごい。

『一千一秒物語』稲垣足穂



松田行正(牛若丸)・・・本のデザインと並行して、本のオブジェ性を探求。

『はじまりの物語・デザインの視線』 小口の見せ方がユニーク

(小口を
右にずらす)→



←(小口を
左にずらす)



青木康子(パンゲア)・・・美術展のグラフィックやアパレルブランド「LOWRYS FARM」のクリエイティブ全般のディレクション

『GOTH』横浜美術館での美術展で出版。金色の表紙と小口の工夫で魅せます。

(小口を
右にずらす)→



(小口を
←左にずらす)



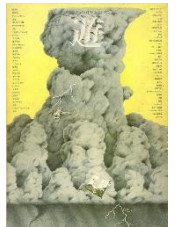
田中一光・・・戦後世界を代表するデザイナー。
シンプルで大胆。

『鎌鼬』細江英公の写真集



杉浦康平・・・明晰なデザインと造本にあふれる仕事

『全宇宙誌』松岡正剛
雑誌『遊』



小口を
右にずらす→
(星座図)



小口を
←左にずらす
(アンドロ
メダ星雲)



和田誠・・・楽しさが伝わってくるデザイン。

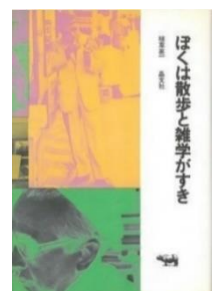
『お楽しみはこれからだ』(シンプルなラインが生きる)
『ポートレートインジャズ』村上春樹・和田誠



平野甲賀・・・大きな手書き文字に温かみを感じる。

『ロートレック荘事件』筒井康隆
(新潮文庫の文字の大きさ!)

『ぼくは散歩と雑学がすき』植草甚一



祖父江慎(コズフィッシュ)・・・独特の面白本を作る人

『そして、カナタへ』しりあがり寿、『幻燈サーカス』
中沢 晶子 (著), ささめや ゆき (イラスト)

『ユーゲニア』恩田陸(1度傾いた文字や左右の文字数の違い)

(上下でチリの高さが違う,帯が入場券)

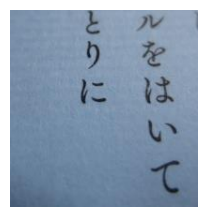
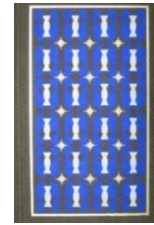


名久井直子・・・「純粹に本の内容を感じるままに制作しています」と。

『えーえんとくちから』笹井宏之

『あたしとあなた』谷川俊太郎

(表1にタイトルが無い! この本だけの紙を作るこだわり!)



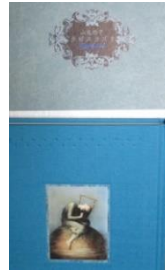
クラフト・エヴィング商會(吉田浩美+吉田篤弘)・・・
架空の世界に夢を与えるユニット

『注文の多い注文書』小川洋子/クラフト・
エヴィング商會、『星を賣る店』(ラベルが toriaezu beer)



柳川貴代(フラグメント/+西川孝司)・・・スキッと綺麗な本を作られる

『ラピスラズリ』山尾悠子、『辺境図書館』皆川博子
『教皇ヒュアキントス ヴァーノン・リー幻想小説集』



吉岡秀典(セプテンバーカウボーイ)・・・攻めた紙づかい
をしている。

『夜よる傍に』森泉岳士、『孢子文学名作選』(表紙の穴
開きや、紙の色や質が変わり、フォントのタイプや大きさの違いなど)、
『映画横丁 創刊号』



山口信博・・・工芸的手作り感。下は穴が貫通した本。

『デザインの素』小泉誠



佐野裕哉…アートっぽいけれど控え目な感じが好感。

新潮社装幀室…50年以上の歴史があるそうです。

『角砂糖の日』山尾悠子、挿画／合田佐和子、まりの・るうにい、山下陽子

『求愛瞳孔反射』穂村弘（瞳部分が穴あき！）
『世界の果ての庭』西崎憲



セキネシンイチ…特にコミック分野でご活躍

ミルキィ・イソベ…考え抜かれた効果的な派手さと優れたレイアウト感覚

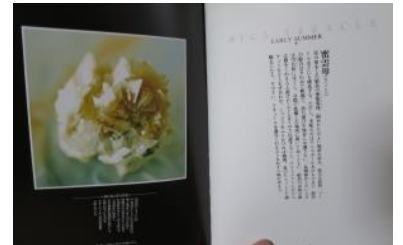
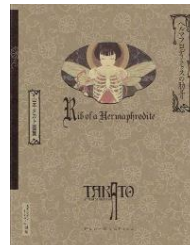
『ランバーロール1号』、戌井昭人、ふくだももこ、松波太郎、加藤秀行、森泉岳士、おくやまゆか、安永知澄、横山雄、ササキエイコ

『ヘルマフロディトゥスの肋骨』山本タカト画集
『鉾石倶楽部』長野まゆみ『心の悲しみ』西岡兄妹

『さよならもいわずに』上野顕太郎

タント紙の表紙)

(涙が落ちたような表紙)



間奈美子(アトリエ空中線)…プライベートの出版局。
未生響名義で戯詩・造本を手がけるブックレットを
多数刊行

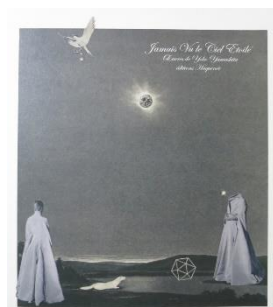
濱崎実幸…1996年より装幀を専業とされている。

『山下陽子作品集 未踏の星空』、『回文戯詩 カイゼル製菓』未生響（透明プラスチックケース入り）

『読む時間』アンドレ・ケルテス

『砂丘律』千種創一

（「原稿を読んでほどこいていきそうな歌だという印象を受けた、だから糸で縛った」と。）



佐々木暁…作品によく似合った色の使い手

『池澤夏樹個人編集 日本／世界文学全集』

『ニューヨークで考え中』 近藤聡乃



鈴木成一…「不要な要素をそぎ落とし、徹底的に本の個性を削り出すこと」を心がけておられる。

『あひる』 今村夏子

『スカイクロラ』シリーズ

(壮大さと統一感があって美しい)



芥陽子 (note) …コミックや軽めの文章と相性がいい

『坂本ですが？』 佐野菜見

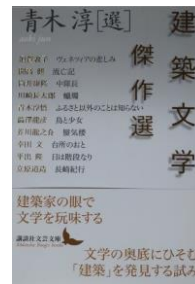
『寝台鳩舎』 鳩山都子



菊池信義…変わったフォントや文字の効果へのこだわりが凄い

『講談社文芸文庫』、

『オシリス、石の神』



大島依提亜…映画のグラフィックを中心に書籍、展覧会をされています。

『玄関の覗き穴から差してくる光のように生まれたはずだ』 木下龍也, 岡野大嗣 (挿込小説：舞城王太郎)

『シブいビル』 鈴木伸子、写真／白川青史



川名潤…多数の書籍装丁、雑誌のエディトリアル・デザインを手がける

『地図趣味』 杉浦貴美子

